

1 . 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0175400340		
法人名	医療法人 交雄会		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	紋別郡遠軽町生田原350番地生田原診療所2階 (電 話) 0158 - 49 - 4385		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	1名	要介護 2	4名
要介護 3	2名	要介護 4	1名
要介護 5	1名	要支援 2	
年齢	平均 88.67 歳	最低 79 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生田原診療所 遠軽学田病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公共施設や商店街、民家に囲まれた地域にするホームであるが閑静である。医療法人が町の診療病棟であった、建物2階部分を改修し、グループホームとし1階部分は診療所として運営している。利用者の言葉をもとに定められた、簡潔で明確な理念の下に、全職員が研修・研鑽業務改善への努力を重ねながら、共同生活を適切に支援している。診療所の上階に位置する事もあって、医療面でのモニタリングや連携が充分になされているので、利用者・家族・職員にとっても安心感が高いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 気軽に入れる玄関周り等の配慮については、ガーデニングやベンチを設置した。一人ひとりの特徴や変化について、具体的に記録については、用紙の改善を図り力量アップ中である。休憩室は、物理的に困難で長期的目標としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を充分理解し、自己評価は入居者が就寝した後にスタッフが集まって3回に分けて行った。昨年の外部評価結果をカンファレンス時に検討し、改善項目だった記録については、改善を計るべく検討中である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、グループホームの利用状況や活動状況の報告、評価への取り組みや結果を報告している。また、今後の課題や解決すべき問題等を討議していた結果、認知症への理解が深まり見守りや声かけ、協力の申し入れが地域住民に生じてきている。また、スプリングラーの必要性が検討され総合支所に申し入れた経緯もある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時に、管理者や担当者が日常の生活ぶりを伝えたりしながら、家族の意見・苦情を聞き出している。また、アンケート調査やご意見箱の活用もしている。意見等はミーティングで話し合い運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 1階の診療所へ通院している、顔見知りの人や商店街への買物や文化施設への散歩を通して、日常的に交流が図られている。ホーム前の駐車場が広いので、週末には幼児や子供の遊び場となっている。この事は、利用者の張り合いにもなっている。町内会長や管理者の努力で、地域に見守り・声かけ・協力の申し入れが生じている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が望んでいる事を網羅し理念としている。建物入口からホームの階段踊場や事務室、居間に掲示し人目につく様にしている。交流紙の「しらかばだより」は、ホームとの交流を願う記述となっていて、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を大切にする理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入所者の言葉をもとに、定められた簡潔で明瞭な理念は居間に大きく見やすく掲示されていて、利用者ばかりではなく職員も常に意識して実践している。月例会やカンファレンスでも理念にふれ確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	商店街への買物や文化施設への散歩を通して、ホームは地域と交流している。ホーム前の駐車場が広いので、週末には幼児や子供の遊び場となっている。この事は、利用者の張り合いにもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を充分理解し、自己評価は利用者が就寝した後に職員が集まって3回に分けて行った。昨年の外部評価結果をカンファレンス時に検討し、改善項目だった記録については、改善を計るべく検討中である。	○	改善を要する項目については、長期的あるいは短期的に改善計画を立てて、その改善経過が明らかになるようにする事が望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会は結成されていないが、家族代表は地域居住者に依頼しているので親近感がある。町内会を通して、認知症への理解が深まり、見守りや声かけ、協力の申し入れが地域に生じてきている。また、スプリングラーの必要性が検討され、町の総合支所への申し入れをした経緯がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、総合支所と至近距離にあるが交流、連携の機会が多いとは言えない。支所からの事業の依頼はとくにない。	○	運営推進会議に、出席した町の担当課長は町職員の研修の場所としたいという考えがあったことから、実現に向けて働きかてみてはどうだろうか。また、町内会や老人会等への出張ミニ講演を行う等、地域密着型サービスのあり方をアピールし地域住民のいっそうの理解と協力を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人便りや「しらかばだより」で利用者の生活ぶり等が報告されている。金銭管理簿のコピーや領収書も送付している。急ぐ時には、電話で随時連絡相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に管理者や、担当者が日常の様子を伝える他、家族の希望や苦情を聞き取るようにしている。アンケートは、記述が少なく効果が期待できないので、ご意見箱は利用しやすいので玄関に設置してある。意見等は、ミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時1年間は、離職者が続いたがその後は安定している。利用者の担当制をとって、職員とはより親密になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、実践リーダー研修を受講し人材育成の研修を終了し、実際に学んだことを活かしている。また、個の職員の得意、不得意分野の把握に努め、個々の力量に合ったアドバイスをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年6月以来、近隣地区のグループホーム6ヶ所と、毎月1回勉強会を開催している。管理者同士も、相互に連絡を取り合っている。お互いに、サービス向上に役立つ情報の交換や、入居希望者の情報交換等をしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に1～2回見学する程度で、決定する場合が多いので利用相談のあった時から、極力本人に面接する機会を作っている。アセスメントシートで、利用者の生活背景を把握して対応することで、利用者の不安感を少なくしている。担当制で職員に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「皆でいると楽しい」「できない事は助け合い」等の理念に沿うように生活している。掃除や炊事は、お互いに助け合っているほか、ホームの出入り口は居間と続いているので見守りをする人がいたりといろいろである。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を聞き取る他に、顔の表情や動作で把握する事に努めている。したい時に、したい様に過ごしていただくという本人主体で支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや定例会で検討された事をもとに、担当者が介護計画を立て介護支援専門員がチェックして最終作成している。担当者が確認印を押し、家族に確認していただき承認されたらコピーして手渡している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在は、3ヶ月毎の評価、見直しで充分対応できているが急な変化などがあった時には、その都度見直しをする様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	階下の診療所への通院や、かかりつけ医への受診介助等必要な支援は柔軟に対応している。また、季節に応じて特別は外出（お花見や外食ドライブ）は、利用者の希望に沿う様にしながら支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	階下の診療所に通院している為、看護職とは十分に連携がとれている。診療所に医師住宅が併設されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは、重症化や終末期に向けた取りきめがあり同意書を交わしている。また、何度も話し合い家族の希望は了解している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導は、さり気なく行われていた。居室へ入る時は、ノックや声かけをして了解を得てから入室している。言葉かけも、利用者の誇りを損ねない対応である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせずに、散歩、入浴、買物等一人ひとりの状態や、回数など希望に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今まで長いことやってきたので、一緒に食事を作ることを好まない利用者が多い。下ごしらえや、下膳を一緒に行っている。プランターで栽培した豆を収穫して、メニューに取り入れたりしている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも、希望に合わせて入浴できる体制になっている。しかし、午後に入浴して3時に体操、ティータイムそして夕食という生活リズムが定着しているので、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝える様にしている。(カレンダーめくり、食器の片付け等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、散歩、買物、外気浴、花壇の花いじりなど外に出ることを支援している。1日に運動の為に、何度か散歩する利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は遅出職員が、帰った時に施錠している。朝は早出職員が出勤時に開錠している。見守りする担当も決まっていて、外出するそぶりがあった場合には、一緒に外出できる体制になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に1回は、避難訓練をしている。職員は全員携帯電話を持っている。近所の方にも、緊急時の駆け付けをお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や体調・病状に気配りしながら、摂食量や水分摂取量の調整と記録をしている。年に1回は、系列老健の管理栄養士による栄養計算や指導を受けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のアドバイスにより、廊下や階段にアクセントとして花やジグソーパズルの作品を飾りつけ、折り紙の蝶やちぎり絵、絵手紙の作品もそれとなく飾られている。利用者、職員の紹介写真はお気に入りのを貼ってあるというだけあって、とても良い笑顔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族が使い慣れた物や、好みの物を持ち込み自由に居心地よく工夫している。表彰状、家族の写真、冷蔵庫、のれん、タンス等様々である。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。